

シラバスの見方

※この PDF ファイルには目次(しおり)がついています。スマートフォンを使用中の方は画面上の設定等から目次を呼び出してご利用ください。

授業科目名	①		
実務経験講師	②	実務経験	③
開講年度	④ 年度	学 期	⑥
年 次	⑤ 年次	授業回数	⑦ 回
単 位 数	単位	単位時間数	時間
授業科目の概要	⑧		
授業科目の到達目標	⑨		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7		⑩	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑪
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 実務経験講師

講師に担当する科目に関する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

③実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

④開講年度

⑤年次

授業を受ける学年です。

⑥学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑦授業回数

⑧授業科目の概要

授業内容のたまかな説明です。

⑨授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達すべき学修の目標です。

⑩授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑪使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

授業科目名	人間関係論Ⅲ		
実務経験講師	—	実務経験	—
開講年度	2022年度	学 期	前期
年 次	3年次	授業回数	8回
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間
授業科目の概要	看護専門職として自己への癒し、自立訓練の必要性を学びます。更に、自分の言動が他者へ与える影響を考察します。		
授業科目の到達目標	1. 自己実現に向けて、自分の存在や他者の存在を考えることができる。 2. 自己、他者受容ができ適切な自己主張ができる。 3. 自己のタスクに向け評価・調整を図ることができる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	人が持っている「枠組み」 小講義「自己概念と人の成長」……テキスト P11～	講義 ワーク	
2	価値観が人間関係に与える影響 価値観とモチベーション	講義 ワーク	
3	「思い込み」と人間関係 エクササイズ『発想の転換』……テキスト P33～ エクササイズ『第一印象』……テキスト P36～	講義 ワーク	
4	双方向のコミュニケーション コミュニケーションのしくみ、コンテクスト、ノイズ、反応と確認	講義 ワーク	
5	サインを読みとく「目は口ほどにものを言う」、視線 観察をする、まなざし・姿勢・ジェスチャー・反応・空間	講義 ワーク	
6	コミュニケーションの実際 エクササイズ「自分の話し方、きき方の検討」…テキスト P58～ 傾聴すること、具体的表現と反応	講義 ワーク	
7	ラポールを築くとは モデリングとカメレオン効果 「観察力」をみがく	講義 ワーク	
8	感情の表出・わかる・心理的背景に心を開ける 小講義「ポジティブな感情表出とは」…テキスト P89～ アサーティブコミュニケーション	講義 ワーク	

使用テキスト	人間関係づくり トレーニング 金子書房
参考書・資料 等	

この授業科目の前提となる主な科目	心理学 人間関係論 I・II
この授業科目から発展する主な科目	専門分野 II 統合分野
成績評価の方法	授業テキストの提出及びワーク内容を総合的に評価する
その他 受講生への要望等	積極的に学習に参加してください。

授業科目名	成人看護学実習Ⅰ（周術期）		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022年度	学 期	全期
年 次	3年次	授業回数	12日間
単 位 数	2単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	周術期にある対象の理解、生命維持と生活機能回復に向けた看護を実践するために、必要な知識・技術・態度を習得する。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける患者の心身の状態を把握し、術後合併症のリスクをアセスメントできる 2. 術式や麻酔によって起こりえる副作用や術後合併症をアセスメントできる 3. 手術室の安全管理、看護師の役割が理解できる 3. 術後合併症を予防するための看護実践ができる 4. 周術期の対象とその家族の心理・社会的側面を理解し、必要な看護実践ができる 5. 早期離床・生活機能の回復を促進するための援助ができる 6. 患者が安全安楽な日常生活が送れるよう、退院に向けた看護実践ができる 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	臨地実習準備 ・受け持ち患者の事前学習 ・臨地実習初日の行動計画作成 ・グループ目標の立案	【学内】 ・グループごとに担当教員の指導のもと行動する	・成人 事前学習 ・看護過程様式5号 ・看護過程様式7号
2	臨地実習準備 ・学内1日目の追加学習 ・技術練習	【学内】 ・グループごとに担当教員の指導のもと行動する	・成人 事前学習 ・看護過程様式5号 ・看護過程様式7号
3	情報収集・情報の分類整理 ・病棟オリエンテーション ・患者紹介 ・情報収集 ・援助の見学 ・バイタルサイン測定 ・手術室実習（受け持ち患者の予定による）	【臨地】 ・事前学習をもとに、意図的に情報収集を行う。 ・個人目標、グループ目標を全体で発表する	・成人 事前学習 ・看護過程様式 1～3号、5号、7号
4	情報収集・情報の分類整理 ・援助見学、もしくは一部介助で実施 ・情報収集 ・情報の分類整理	【臨地】 ・援助は見学（一部介助）した後、2回目からは実施とする。	・看護過程様式 1～3号、5号、7号
5	情報の分析解釈 ・分類整理した情報の分析解釈を行い、顕在、潜在する看護問題#をアセスメントする ・個別指導「看護の方向性」	【臨地】 ・様式4号をもとに、看護問題#1をアセスメントする ・看護問題の方向性を明確にし、個人指導に臨むこと	・看護過程様式4号、7号

6	看護計画立案 # 1 ・看護計画 # 1 に基づく援助の実施 ・カンファレンス 「看護計画 # 1」	【臨地】 ・ # 計画に基づき援助を実施し評価する。	・看護過程様式 4 号 # 1 ・看護過程様式 6 号 # 1 ・看護過程様式 7 号
7	看護計画立案 # 2 ・看護計画 # 1 に基づく援助の実施評価 ・個別指導 「看護計画 # 2」	【臨地】 ・ # 計画に基づき援助を実施し評価する。	・看護過程様式 4 号 # 2 ・看護過程様式 6 号 # 2 ・看護過程様式 7 号
8	看護計画 # 1 # 2 実施評価 ・看護計画 # 1 # 2 に基づく援助の実施評価 ・ショートカンファレンス	【臨地】 ・ # 計画に基づき援助を実施し評価する。	・看護過程様式 6 号 # 1 # 2 ・看護過程様式 7 号
9	学習会の発表準備 各実習記録の追加・修正	【学内】 ・担当教員の指示の基、グループもしくは個人学習を行う	・成人 事前学習 ・実習記録すべて
10	看護計画 # 1 # 2 実施評価 ・看護計画 # 1 # 2 に基づく援助の実施評価 ・カンファレンス 「個人目標・グループ目標の振り返り」	【臨地】 ・カンファレンスは学生主体で進めること。周術期実習での学びを発表する。	・看護過程様式 6 号 # 1 # 2 ・看護過程様式 7 号
11	学習会の発表準備 関連図の最終的な追加・修正を行い、対象の全体像を整理する（必要時個人指導あり）	【学内】 ・不足分記録を追加修正する ・周術期実習での学びを整理する	・成人 事前学習 ・看護過程様式 5 号
12	実習記録の整理・提出 ・記録の整理、追加修正 ・実習記録の提出	【学内】 ・不足分記録を追加修正する ・周術期実習での学びを整理する	・まとめ,振り返り ・実習記録すべて

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 スーバルヒロカワ 系看 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系看 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
参考書・資料 等	対象に合わせて選択
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般、人体の構造と機能、疾病治療論、基礎看護学概論、 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ、臨床看護総論、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴ
この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴ、成人看護学実習Ⅰ～Ⅲ、 看護の統合と実践 看護の統合Ⅰ～Ⅱ
成績評価の方法	評価表参照
その他 受講生への要望等	成人看護学方法論Ⅴ「周術期の看護過程」での事前学習と事例展開を復習し、実習前に再度学習を深めた上で臨むこと。また、カンファレンスでは学生間での学びを共有をできるよう、主体的な発言や行動がとれることを期待する。

授業科目名	成人看護学実習ⅡⅢ（健康段階別）		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022年度	学 期	全期
年 次	3年次	授業回数	9日間
単 位 数	2単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	・急性期・回復期（リハビリテーション期含む）・慢性期・終末期の対象の理解、生命維持と生活機能回復に向けて、健康段階別の特徴を踏まえた看護を実践する。看護実践に必要な知識・技術・態度を習得する。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康問題を有する患者とその家族を理解し、全体像を説明できる 2. 対象から得た情報をもとに、各健康段階の特徴に応じたアセスメントができる 3. アセスメントから、看護計画・看護目標を立案することができる 4. 各健康段階の特徴を踏まえ、対象に必要な看護実践と評価ができる 5. 理論を活用することで、対象とその家族の心理・社会的側面を理解できる 6. チーム医療における看護師の役割と責任について理解できる 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	臨地実習準備 ・受け持ち患者の事前学習 ・臨地実習初日の行動計画作成 ・グループ目標の立案	【学内】 ・グループごとに担当教員の指導のもと行動する	・成人 事前学習 ・看護過程様式 5号 ・看護過程様式 7号
2	臨地実習準備 ・学内 1日目の追加学習 ・技術練習	【学内】 ・グループごとに担当教員の指導のもと行動する	・成人 事前学習 ・看護過程様式 5号 ・看護過程様式 7号
3	情報収集・情報の分類整理 ・病棟オリエンテーション ・患者紹介 ・情報収集 ・援助の見学 ・バイタルサイン測定	【臨地】 ・事前学習をもとに、意図的に情報収集を行う。 ・個人目標、グループ目標を全体で発表する	・成人 事前学習 ・看護過程様式 1～3号、5号、7号
4	情報収集・情報の分類整理 ・援助見学、もしくは一部介助で実施 ・情報収集 ・情報の分類整理	【臨地】 ・援助は見学(一部介助)した後、2回目からは実施とする。	・看護過程様式 1～3号、5号、7号
5	情報の分析解釈 ・分類整理した情報の分析解釈を行い、顕在、潜在する看護問題#をアセスメントする ・個別指導「看護の方向性」	【臨地】 ・様式4号をもとに、看護問題#1をアセスメントする ・看護問題の方向性を明確にし、個人指導に臨むこと	・看護過程様式 4号、7号

6	看護計画立案 # 1 ・看護計画 # 1 に基づく援助の実施 ・ カンファレンス 「看護計画 # 1」	【臨地】 ・ # 計画に基づく援助を実施し評価する。	・看護過程様式 4 号 # 1 ・看護過程様式 6 号 # 1 ・看護過程様式 7 号
7	看護計画立案 # 2 ・看護計画 # 1 に基づく援助の実施評価 ・ 個別指導 「看護計画 # 2」	【臨地】 ・ # 計画に基づく援助を実施し評価する。	・看護過程様式 4 号 # 2 ・看護過程様式 6 号 # 2 ・看護過程様式 7 号
8	看護計画 # 1 # 2 実施評価 ・看護計画 # 1 # 2 に基づく援助の実施評価 ・ショートカンファレンス	【臨地】 ・ # 計画に基づく援助を実施し評価する。	・看護過程様式 6 号 #1#2 ・看護過程様式 7 号
9	学習会の発表準備 各実習記録の追加・修正	【学内】 ・担当教員の指示の基、グループもしくは個人学習を行う	・成人 事前学習 ・実習記録すべて
10	看護計画 # 1 # 2 実施評価 ・看護計画 # 1 # 2 に基づく援助の実施評価 ・ カンファレンス 「個人目標・グループ目標の振り返り」	【臨地】 ・カンファレンスは学生主体で進めること。周術期実習での学びを発表する。	・看護過程様式 6 号 #1#2 ・看護過程様式 7 号
11	学習会の発表準備 関連図の最終的な追加・修正を行い、対象の全体像を整理する（必要時個人指導あり）	【学内】 ・不足分記録を追加修正する ・周術期実習での学びを整理する	・成人 事前学習 ・看護過程様式 5 号
12	実習記録の整理・提出 ・記録の整理、追加修正 ・実習記録の提出	【学内】 ・不足分記録を追加修正する ・周術期実習での学びを整理する	・まとめ,振り返り ・実習記録すべて

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ノーベルヒロカワ 系看 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系看 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
参考書・資料 等	対象に合わせて選択
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般、人体の構造と機能、疾病治療論、基礎看護学概論、 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ、臨床看護総論、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴ
この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴ、成人看護学実習Ⅰ～Ⅲ、 看護の統合と実践 看護の統合Ⅰ～Ⅱ
成績評価の方法	評価表参照
その他 受講生への要望等	成人看護学方法論Ⅴ「健康段階別 看護過程」での事前学習と事例展開を復習し、実習前に再度学習を深めた上で臨むこと。また、カンファレンスでは学生間での学びを共有できるよう、主体的な発言や行動がとれることを期待する。

授業科目名	老年看護学実習Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022年度	学 期	通年
年 次	3年次	授業回数	12日間
単 位 数	2単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	<p>老年期特有の健康問題に由来する生活機能障害のある老年者を受け持ち、看護過程の展開をとおして、加齢変化・健康障害のある対象を総合的に理解し、対象に応じた看護を実践するために必要な能力を養います。</p>		
授業科目の到達目標	<p>1.老年期にある対象の身体的・精神的・社会的変化が理解できる 2.加齢変化・健康障害の程度に応じた看護技術が提供できる 3.老年期にある対象への理解を深め、老年看護の機能と役割が理解できる 4.老年期にある対象とその家族の人生観・価値観等を理解し、尊重した態度がとれる 5 老年期にある対象及び家族をとりまく社会環境の変化を理解し、保健医療福祉の連携・協働を学ぶことができる 6.老年期にある対象の看護をとおして自己の老年観を養うことができる</p>		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	【学内】オリエンテーション 患者情報・事前学習の提示	個人ワーク	初日の行動計画 病態関連図（事前学習）
2	病棟オリエンテーション 受け持ち患者紹介 情報収集・病態の把握	病棟実習 カンファレンス： 個人目標・グループ目標	看護過程様式1～3号
3	情報収集 充足・未充足の判別 加齢変化が基本的欲求に及ぼす影響の把握	病棟実習 カンファレンス： 受け持ち患者の転倒転落のリスク	看護過程様式1～3号 老年様式4号 （転倒・転落リスク確認シート）
4	優先順位の決定 分析・解釈	病棟実習 記録指導： 充足・未充足の判別、優先順位の決定	看護過程様式1～3号
5	【学内】 優先度の高い1項目の分析・解釈、看護計画立案	個人ワーク	看護過程様式4号
6	計画立案	病棟実習 カンファレンス：看護計画発表	看護過程様式4号
7	計画立案	病棟実習 カンファレンス：看護計画発表	看護過程様式1～4号 老年様式1号（生活史） 老年様式2号（コミュニケーション能力）

8	実施・評価	病棟実習 記録指導：看護計画の追加・修正	看護過程様式 1～4 号 老年様式 3 号 (社会的役割の状態)
9	【学内】 看護計画の追加・修正	個人ワーク	看護過程様式 1～5 号 老年様式 1～3 号
10	実施・評価	病棟実習	看護過程様式 1～5 号 老年様式 1～3 号
11	総合評価	病棟実習 カンファレンス：振り返り、老年観	看護過程様式 1～6 号 老年様式 1～3 号
12	【学内】 社会資源の活用	グループワーク： 受け持ち患者に必要な社会資源	看護過程様式 1～6 号 老年様式 5 号 (社会資源の活用)

使用テキスト	最新老年看護学第 3 版/日本看護協会出版会 系統看護学講座専門Ⅱ老年看護病態・疾患論/医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド老年看護/照林社 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践/ヌーヴェルヒロカワ エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図/中央法規出版
参考書・資料 等	今日の治療薬 2019/南江堂 検査値ガイドブック/サイオ出版 地域療養を支えるケア/メディカ出版 老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ講義資料
この授業科目の前提となる主な科目	老年看護学概論・老年看護学方法論Ⅰ・老年看護学方法論Ⅱ・老年看護学方法論Ⅲ 老年看護学実習Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	看護の統合実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	既習の知識・技術をもとに老年期にある対象を深く理解し、老年者のもつ強みを引きだす援助を行っていきましょう。なお、老年看護学実習Ⅱの受講には、実習前に以下の科目の単位を修得している必要があります。 老年看護学概論・老年看護学方法論Ⅰ・老年看護学方法論Ⅱ・老年看護学方法論Ⅲ・老年看護学実習Ⅰ

授業科目名	小児看護学実習		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022年度	学 期	全期
年 次	3年次	授業回数	12日間
単 位 数	2単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	<p>小児看護学実習では対象の理解を深めるため、健康児とも関りを持ち、成長発達段階について具体的なイメージを形成します。それらをベースとして、健康破綻した児の成長発達段階・健康段階に応じた看護が実践できる基礎的能力を養います。また、患児だけでなく家族も看護の対象であることの認識を深め、家族に対する看護展開も考えていきます。</p>		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.健康な子どもの成長発達を理解し、適切な日常生活の援助ができる。 2.子ども及び家族の看護上の問題を明確にし、子どもの発達段階を考慮した看護が実践できる。 3.小児各期の対象に応じた基礎看護技術を学ぶ。 4.入院、疾病が子どもと家族へ及ぼす影響を理解し、保健医療チームの役割について学ぶ。 5.子どもの安全管理における看護師の責任を自覚し、事故防止に努めることができる。 6.子どもを愛し、尊重し、一人の人格をもった人間として関わる姿勢を養う。 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	【学内】 オリエンテーション 事前学習重要事項確認テスト	学内	実習記録 6-2 号
2 } 5	【保育園】 0歳～5歳までの事前に決めたクラスに入り、保育士とともに 保育の実際を見学、実践する。	保育園実習	実習記録 1号 実習記録 2号
6	【学内】 成長発達段階の学びの共有 1.年齢（月齢）の成長発達段階についてのまとめ 2.まとめた成長発達段階についての意見交換 3.成長発達段階の知識の統合	学内	実習記録 3号
7	【病棟実習】 オリエンテーション 受け持ち紹介（児・家族） 看護過程展開 外来実習（状況に応じて）	病棟実習 カンファレンス 実習目標 看護の方向性	実習記録 4～7号

8		病棟実習 カンファレンス 子どもの安全	実習記録 4～8号
9		病棟実習	実習記録 4～8号
10		病棟実習 カンファレンス テーマカンファ	実習記録 8号 (実習記録 4～7号) (実習記録 9号)
11		病棟実習 カンファレンス 実習まとめ	実習記録 5号 (実習記録 9号)
12	【学内】 退院後の生活を見据えた関わり検討 慢性疾患・難病患児の看護検討	学内 カンファレンス グループワーク	実習記録 9号

使用テキスト	
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学方法論Ⅲ
この授業科目から発展する主な科目	看護の統合実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価
その他 受講生への要望等	小児看護学実習の受講には、実習前に以下の科目全ての単位を修得している必要がある。 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学方法論Ⅲ

授業科目名	母性看護学実習		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022年度	学 期	全期
年 次	3年次	授業回数	12日間
単 位 数	2単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	<p>母性看護学実習では、妊婦、産婦、褥婦、新生児を中心に生理的な経過を判断し、ヘルスプロモーションに向けた看護を考える実習としたい。出産や育児は、心理的不安が増す傾向があり、母親のみならず家族を含めた支援が母性看護の大きな役割の一つである。実習では実際に生命の誕生や、幼い命を育む過程に触れることで命の尊さを実感する機会となる。自己の親性観（母性観・父性観）についても考える機会となる。また、健康教育・保健指導は母性のヘルスプロモーションのために必要な看護技術である。対象のライフステージに応じた看護について、保健指導案を作成し、保健指導を実践することで学習する。</p>		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊・産・褥婦の、周産期における経過を理解し、個々の状態に応じた援助が出来る。 2. 妊・産・褥婦の心理を理解し、母性意識の形成発展、新たな家族機能の構築に向けた援助を考察する。 3. 児の生理的な経過を理解し、胎外生活の適応に向けた援助が出来る。 4. ライフステージにおける対象の健康と健康問題について考察し、保健指導が出来る。 5. 自己の親性観（母性観、父性観）を深める。 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	【学内】オリエンテーション、個人目標設定 知識確認テスト、技術確認 行動計画の作成	学内	1-1号・6号
2	【病棟】オリエンテーション 受け持ち紹介（母・児）	病棟実習 カンファレンス	1-1号 2-1・2-2・2-3号
3	バイタルサイン測定・一般状態の観察 母児への援助の見学・実施	病棟実習	3-1・3-2・3-3号 4-1・4-2号
4	指導見学 連携部門の見学等	病棟実習	5号（必要時） 6号（随時）
5		病棟実習 カンファレンス	7号（分娩見学時）
6	【学内】記録整理	学内	1~1・1-2号 4-3号
7	【学内】保健指導オリエンテーション 指導案作成	グループワーク	8-1・8-2号

8	【学内】保健指導案作成 教材作成	グループワーク	8-1・8-2号
9	【学内】教材作成 指導実施	グループワーク リフレクション	8-2号 9号
10	【学内】まとめ	グループワーク カンファレンス	9号
11	【学内】母性看護における倫理について カンファレンス	DVD視聴 カンファレンス 個人ワーク	10号
12	【学内】最終カンファレンス 知識確認テスト2回目 実習のまとめの学習	カンファレンス 個人ワーク	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院
参考書・資料 等	病気がみえる⑩産科 MEDIC MEDIA パーフェクト臨床実習ガイド 第2版 母性看護 照林社 ウエルネスから見た母性看護過程 医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	・母性看護学概論 ・母性看護学方法論Ⅰ～Ⅲ
この授業科目から発展する主な科目	看護の統合実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	母性看護学実習の受講には、実習前に、以下の科目を全て修得している必要がある。 ・母性看護学概論 ・母性看護学方法論Ⅰ～Ⅲ

授業科目名	精神看護学実習		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022年度	学 期	全期
年 次	3年次	授業回数	12日間
単 位 数	2単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	精神障害者と関わり、対人関係を形成し、必要な援助の実践を通し、精神保健医療福祉領域における看護の役割と機能、地域生活支援のあり方、精神障害者とその家族に対する看護実践に必要な基礎的知識を学びます。精神科病棟や事業所で実習を行い、病棟－地域をつなぐ切れ目のない支援について理解を深めていきます。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害が患者や家族の日常生活にどのような影響を及ぼしているのか理解できる。 2. 精神障害の程度に応じたニーズや課題に気づき、対象に必要な援助が実践できる。 3. 患者－看護師関係の発展過程を通して自己洞察を深め、治療的な関わりができる。 4. 精神障害者の人権擁護や意思決定支援の重要性を理解できる。 5. 精神科医療における看護の役割と、多職種との連携・協働を理解できる。 6. 地域実習に臨み、社会復帰支援の必要性と支援方法を理解できる。 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	【学内】 ・オリエンテーション	・個人ワーク	精神看護学実習記録様式 7号
2	【病棟実習】 ・病棟オリエンテーション ・情報収集 ・コミュニケーション ・日常生活援助の見学	・指導者より指導を受けながら実習する。 ・カンファレンス	看護過程様式 1～3号 精神看護学実習記録様式 7号
3	【病棟実習】 ・情報の分類、整理 ・日常生活援助の見学、実施	・指導者より指導を受けながら対象の援助を実施する。	看護過程様式 1～3号 精神看護学実習記録様式 7号
4	【病棟実習】 ・情報の整理、分析 ・日常生活援助の実施	・指導者より指導を受けながら対象の援助を実施する。	看護過程様式 1～4号 精神看護学実習記録様式 7号
5	【病棟実習】 ・情報の整理、分析 ・日常生活援助の実施	・指導者より指導を受けながら対象の援助を実施する。	看護過程様式 1～4号 精神看護学実習記録様式 7号
6	【病棟実習】 ・分析から導き出した援助の実施	・指導者より指導を受けながら対象の援助を実施する。 ・カンファレンス	看護過程様式 1～4号 精神看護学実習記録様式 7号・9号

7	【学内】 ・事業所の概要や制度、社会資源・サービスについてまとめる	・個人ワーク	精神看護学実習記録様式 8号・10号
8	【事業所】 ・オリエンテーション ・プログラムに参加	・指導者より指導を受けながら実習する。 ・カンファレンス	精神看護学実習記録様式 8号
9	【事業所】 ・プログラムに参加	・指導者より指導を受けながら実習する。 ・カンファレンス	精神看護学実習記録様式 8号
10	【学内】 ・事例患者に必要な制度や社会資源・サービスについて検討する	・グループワーク	
11	【学内】 講義 「精神障害者の社会復帰支援の必要性と支援方法」	・講義を受ける ・学びをまとめる	精神看護学実習記録様式 11号
12	【学内】 ・実習記録の整理 ・実習のまとめ、振り返り	・個人ワーク ・知識確認テスト ・カンファレンス	まとめ・振り返り

使用テキスト	専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院
参考書・資料等	パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護
この授業科目の前提となる主な科目	精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰ、精神看護学方法論Ⅱ、精神看護学方法論Ⅲ
この授業科目から発展する主な科目	看護の統合実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	精神障害者との直接的な関わりを通して、精神障害者に対するイメージが肯定的に変化したり、対象理解が進むことで患者－看護師関係が発展していく感動を経験しましょう。 精神看護学実習の受講には、実習前に以下の科目を全て修得している必要があります。 精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰ、精神看護学方法論Ⅱ、精神看護学方法論Ⅲ

授業科目名	在宅看護論実習		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022年度	学 期	全期
年 次	3年次	授業回数	12日間
単 位 数	2単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	<p>在宅看護論実習では、訪問看護ステーション実習、地域包括支援センター実習、市保健福祉センター（健康増進課）での実習を通して、地域の中で療養する人々とその家族を理解し、在宅看護の場・機能・役割の実際について学ぶことを目的とする授業科目です。</p> <p>訪問看護ステーション実習では、疾病や障害を抱えながら生活していく上での問題点を明確にし、訪問看護師としてどのような看護介入ができるか考えられることを目指します。また、訪問看護師にとって多職種や関係機関との連携、調整や社会資源の関するケアマネジメントも訪問看護師にとって重要な役割となります。受け持ち事例を通して、社会資源の理解や関係職種の連携について考えられることを目指します。</p> <p>地域包括支援センター実習では、支援を行う対象、利用者のニーズ、地域包括支援センターが地域に果たす役割について学ぶとともに、事業の実際を学びその必要性について考えられることを目標とします。また、地域包括ケアにおける多職種連携の実際を理解することを目指します。</p> <p>市保健福祉センター（健康増進課）実習では、地域の特性及び健康問題を知り、それに対する保健医療福祉サービスの現状を理解することを目指しています。また、地域における保健師(看護職)の活動の場及び役割を理解し、地域の人々の健康を維持、増進することの重要性について考えられることを目指します。</p>		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域の特性及び健康問題を知り、それに対する保健医療福祉サービスの現状について述べることができる 2 あらゆる健康状態にある対象とその家族を理解し、適切な在宅看護援助の方法について述べることができる 3 対象とその家族の価値観を尊重し、信頼関係を築くためのコミュニケーション技術が実践できる 4 在宅療養を支えるシステムを理解し、その関係職種の役割と連携、社会資源の活用について述べるができる 5 実習を通して看護観・家族観を深めることができる 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	【学内】オリエンテーション 在宅看護論実習に必要な知識、技術の確認	学内	在宅看護論実習記録 5

2	訪問看護ステーション実習 オリエンテーション	訪問看護ステーション 実習	在宅看護論実習記録 1、2、3、4、5
3	受け持ち療養者の紹介および受け持ち療養者の選定 バイタルサイン測定・コミュニケーション	訪問看護ステーション 実習	在宅看護論実習記録 1、2、3、4、5
4	援助の一部介助・援助見学	訪問看護ステーション 実習	在宅看護論実習記録 1、2、3、4、5
5	【学内】 記録整理（在宅看護論記録 1、2、3、5） 看護計画（在宅看護論記録 4）の立案 受け持ち事例の疾患・治療・看護の追加学習 看護技術の練習	学内 個人ワーク	在宅看護論実習記録 1、2、3、4、5
6	訪問看護ステーション実習 バイタルサイン測定・コミュニケーション 援助の一部介助、実施・援助見学	訪問看護ステーション 実習	在宅看護論実習記録 1、2、3、4、5
7	訪問看護ステーション実習 バイタルサイン測定・コミュニケーション 援助の一部介助、実施・援助見学	訪問看護ステーション 実習 カンファレンス:訪問看護 ステーション実習で の学び、ケースカンファ レンス	在宅看護論実習記録 1、2、3、4、5
8	【学内】 訪問看護ステーション実習まとめ 支援連携図の作成（在宅看護論記録 2） 必要となる社会資源および支援について考える （在宅看護論記録 2） 訪問看護ステーション実習の学び （在宅看護論記録 8） 地域包括支援センター実習オリエンテーション、知識の 確認	学内 個人ワーク カンファレンス:受け持 ち療養者へのケアにつ いての振り返り	在宅看護論実習記録 1、2、3、4、5、8 在宅看護論実習記録 6
9	地域包括支援センター実習 オリエンテーション	地域包括支援センター 実習	在宅看護論実習記録 6、7
10	事業の見学、同行訪問	地域包括支援センター 実習	在宅看護論実習記録 6、7
11	【学内】 地域包括支援センター実習まとめ 看護観、家族感について自己の考えをまとめる	学内 カンファレンス:地域包 括支援センター実習で の学び	在宅看護論実習記録 6、7、8

12	市保健福祉センター（健康増進課実習）実習 オリエンテーション 保健センターの施設見学 DVD 学習、グループワーク	市保健福祉センター（健康増進課実習）実習	在宅看護論実習 6
----	--	----------------------	-----------

使用テキスト	①医学書院 系看・統合分野 在宅看護論 ②メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論①
参考書・資料 等	同上
この授業科目の前提となる主な科目	人間関係論 I～II 関係法規、社会福祉 公衆衛生学 人体の構造と機能 I～IV 疾病治療論 I～VI 基礎看護学概論 基礎看護学臨床看護総論 基礎看護学方法論 I～IV 成人看護学概論 老年看護学概論 母性看護学概論 小児看護学概論 精神看護学概論 成人看護学方法論 I～IV 老年看護学方法論 I～II 小児看護学方法論 I～II 母性看護学方法論 I～II 精神看護学方法論 I～II 在宅看護論概論、在宅看護論方法論 I、在宅看護論方法論 II、在宅看護論方法論 III
この授業科目から発展する主な科目	臨地実習 看護の統合実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	在宅看護論実習の受講には、実習前に以下の科目を全て修得している必要がある。 ・在宅看護論概論・在宅看護論方法論 I・在宅看護論方法論 II・在宅看護論方法論 III 11 回目の市保健福祉センター（健康増進課実習）実習は、7 月に 2 グループにわけて実習を行う。そのため、実際の在宅看護論実習スケジュールでは振替日になります。

授業科目名	看護の統合と実践 看護の統合Ⅲ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022年度	学 期	後期
年 次	3年次	授業回数	15回
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間
授業科目の概要	これまで学習した技術を複数の課題をもつ患者の看護の事例展開を行い、複合して技術提供することをシミュレーションし、安全安楽を考え、演習を通して学びます。実習において体験できなかった技術や、卒業後を見越した診療の補助技術について実際を想定した技術のまとめを行います。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業の健康管理について述べられる 2. 複数事例を受け持つための情報収集の方法を述べられる 3. 複数の患者を受け持ち、優先順位を考えた行動計画が立案できる 4. 突発的事象に対し、自己の対応能力を認識した対処方法を判断する 5. 突発的事象に対し、優先順位を考えて援助を実施する 6. 臨床で遭遇しやすい突発的事象に対して他者と連携しながら、状況に応じた看護ケアを経験する 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	産業看護①	講義	
2	産業看護②	講義	レポート①
3	<p>オリエンテーション</p> <p>配布資料：シラバス、評価表、記録用紙</p> <p>複数患者を受け持つための情報収集・管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者を受け持つために必要な情報 ・受け持ち患者の情報源 <p>1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優先順位を決定するための情報整理の工夫 ・業務時間の管理 	講義	レポート②
4	<p>入院時の情報収集の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アナムネ聴取 <p>事例紹介</p>	講義	レポート③ 事前学習
5	<p>多重課題の危険性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多重課題とは何か ・多重課題遂行時の危険性について <p>多重課題発生時の対処の原則</p>	講義	レポート④

	<ul style="list-style-type: none"> ・優先順位の判断基準 ・安全な業務の遂行 ・夜間における多重課題への対処 		
6	事例1 看護計画立案① (アセスメント、看護問題、計画立案)	個人ワーク	受け持ち患者記録
7	事例1 看護計画立案②	グループワーク	
8	事例2 看護計画立案 (アセスメント、看護問題、計画立案)	個人ワーク グループワーク	受け持ち患者記録
9	事例3 看護計画立案 (アセスメント、看護問題、計画立案)	個人ワーク グループワーク	受け持ち患者記録
10	複数患者受け持ち時の行動計画立案①	個人ワーク	行動計画用紙
11	複数患者受け持ち時の行動計画立案②	グループワーク 発表	
12	突発的事象への対応①	演習 (クラス別)	
13	突発的事象への対応①	リフレクション (クラス別)	レポート⑤
14	突発的事象への対応②	演習 (クラス別)	
15	突発的事象への対応② まとめ	リフレクション グループワーク (クラス別)	レポート⑥

使用テキスト	既習で使用したテキスト全般
参考書・資料 等	既習で使用したテキスト全般
この授業科目の前提となる主な科目	専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ全般、人間関係論Ⅰ～Ⅲ
この授業科目から発展する主な科目	科目全般
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象および配分：別紙の評価表に準じて、事前学習内容および看護過程レポートにより評価する。
その他 受講生への要望等	3年間で修得した基礎知識・技術・態度をふまえて臨んでください。 提出物は、提出期限を厳守してください。期日を過ぎた場合には評価外とします。 本科目の単位修得は、卒業予定年次に履修することが条件となります。

授業科目名	看護の統合実習		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2022年度	学 期	後期
年 次	3年次	授業回数	12日間
単 位 数	2単位	単位時間数	90時間
授業科目の概要	保健・医療・福祉チームの一員として、臨地での看護活動の実際を経験することで、既習の知識・技術・態度を活用した看護実践能力を養い、卒業後の看護活動に適応できる能力を培います。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護マネジメントの実際を知る。 2. リスクマネジメントの実際に触れ、医療安全、災害看護に対する意識を高める。 3. リーダーシップ・メンバーシップを発揮し、チームで活動できる能力を養う。 4. 看護実践の場において優先順位を考えた行動がとれる。 5. 専門職業人として、最新知識・技術を自ら学び続ける基礎的能力を培う。 		

授業スケジュールと内容

回	内 容	実習方法	記録用紙
1	【学内】オリエンテーション 公共施設・病院実習について	学内	
2	臨床講義 1. 看護部長の役割と機能を知る 2. 病棟管理者の役割と機能を知る	講義	実習記録1号
3	病院実習 1. リーダーの役割と業務の実際を知る（1日） 2. メンバーの役割と業務の実際を知る 3. チームの一員として優先順位を考えて行動できる （4日） 4. 夜間の看護師の役割と業務の実際を知る（1日） 5. 特定の専門領域における看護師の役割を知る（半日）	病棟実習 業務見学・講義	実習記録2号
4			
5			
6			
7			
8			
9	カンファレンス： 実習のまとめ		
10	血液センター講義 血液センターにおける献血から血液製剤作成・管理の実際を知り、知識を高める	見学実習	実習記録4号
11	【学内】災害看護 災害時の看護師の役割について考える 災害看護の実際をイメージし被災後の対応方法を考える	DVD グループワーク	実習記録5号
12	【学内】発表会 実習のまとめ	個人ワーク グループワーク	実習記録6号

使用テキスト	これまで使用したテキスト全般
参考書・資料 等	各科目の授業資料
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学、看護学概論、成人看護学実習、老年看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習、臨床看護実践論、看護の統合と実践Ⅰ（医療安全、看護倫理、看護管理）、看護の統合と実践Ⅱ（国際看護、災害看護）
この授業科目から発展する主な科目	科目全般
成績評価の方法	評価表に準じて評価します
その他 受講生への要望等	本実習は、基礎、成人、老年、小児、母性、精神、在宅、看護の統合と実践で学んだ既習の知識・技術や自己学習を活かして考えながら積極的に学ぶことができるよう期待します。看護の統合と実践の受講には、実習前に実習科目のすべての単位を修得している必要があります。